

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	170400832		
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵 発寒 せせらぎ館		
所在地	札幌市西区発寒2条2丁目3番20号		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170400832-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和5年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で私たちのグループホーム「が一番力を入れている外に出る事」が制限されました。そのため、近所の公園やさとらんどに出かけていました。今年は、5類になり、「エスコンフィールド」や「ロイズ チョコレート工場」などに外かけてきました。また、持っている力を発揮していただくという取り組みで「蔵'sキッチン」と名付けて食事作りやおやつ作りを利用者さんだけで行っています。包丁使いがとても上手だったり、煮たり、味付けしたり、みなさん生き生きと行っています。また、「身体を動かすこと」にも力を入れており、コロナ禍で外出自粛が長かったため、いろいろな地域との交流の一環で、町内会の老人クラブへの参加が今年5月以降から再開しました。月一回4名ほど参加し、お弁当を食べ、カラオケをし、ビンゴゲームをして帰ってきます。町内会の発寒川清掃や女性部の集いにも今年は参加し、徐々に地域との交流も戻りつつあります。職員については法定研修はもちろんの事、主任、介護職員など色々な職種が参加出来る学びの場を設け、職員の教育にも力を入れ、質の高い認知症ケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫店(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーの目の届くところに掲げ、毎週月曜日の申し送りの際、スタッフで唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	6月より再開した地域の老人クラブ、川の清掃行事、盆踊りなどに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、秋の避難訓練を運営推進会議に組み込んで、地域の方にも参加していただき、認知症の人の支援方法を理解してもらうようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議の際、「最近の蔵の様子」として、利用者の現状、ヒヤリハットなどを報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で、地域包括センターの方と意見交換をしたり、生活保護の方がいる時は区役所の保護課の方と話す機会がある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関に施錠せず、出入りが自由な状態にしている。やむを得ず、拘束をしなければならない時は、毎月身体拘束廃止委員会において、現状を見直し、記録に残し、スタッフ間で共有出来るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナが緩和されてから、外部、内部虐待研修にも参加し始め、また、毎月の身体拘束廃止委員会、スピーチロックについても検討する事により、常に意識出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、内部研修で学ぶ機会を持ち、実際に後見人がついている利用者についても理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際、代表より丁寧に説明し、理解、納得をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族が参加する行事、日頃の来訪時などに、利用者の近況を報告し、意見や希望を聞くようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めの事業計画の見直しの時や、毎月の代表、管理者が出席する会議に、主任、副主任も出席して、日々の運営や業務に関して意見交換をし、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	記録に時間が取られ過ぎないように、手書きからタブレットに切り替えたり、年末年始のシフトに出る者や車両係などには手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナで制限があった時は、リモートだったり、緩和されてからは実際の研修に参加したり、各種の資格取得に関しても支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今年度から、西区管理者会の代表となり、年4回の集まりを企画し、お互いに意見交換をしている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に不安を取り除くため、家族に書いてもらったセンター方式をもとに、会話や関りを多く持ち、要望や意向を引き出しやすいようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約する段階で、不安や要望を聞き取り、サービスに反映させるように努力している。また、入居後、家族の来訪時に利用者の近況を伝え、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に提出された基本情報、診療情報、家族の記入したセンター方式の情報をスタッフ間で共有し、サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリの一環として、本人の出来るお手伝いをしてもらったり、出来ない方には側に寄り添うことで淋しさを癒せるよう関係を持っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが緩和されてからは、短い時間で居室で面会してもらったり、施設内で過ごされている様子を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の老人クラブに参加し、以前住んでいた地域の方達と交流できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆でテーブルを囲み、カルタやトランプなどのレクリエーションをしたり、手作業を日課として、簡単なお世話をしながら、支え合い、楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去家族とは、年賀状のやり取りを通じ、家族、元利用者の近況を聞くようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月一回、利用者全員の総合カンファレンス、個人カンファレンスを開き、生活の見直し、要望などを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族の方にセンター方式を使い、これまでの生活歴を記入してもらったり、入居前の施設から基本情報を提出してもらって把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレットに記載されている夜間の様子や朝のバイタルチェック、日中の様子、食事量、水分量、排泄の様子で一日の身体状況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に2回、スタッフ、管理者、代表が参加してカンファレンスを行い、生活の見直しや状況に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアの実践結果などはタブレットに個人毎に記録し、スタッフが確認、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ前は「フリープラン」と言って、個人を「対象にした「行きたい所、食べたいもの、買い物」などで外出していたが、今年度緩和になっても、そこまでは実施できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人クラブの参加し、交流を行い始めた。今後は地域のボランティアグループに来てもらい、音楽、ゲームなどを通して交流を深め、暮らしに刺激をもたらしたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、内科、歯科の訪問診療を受けている。必要があれば、専門医への紹介や受診に結び付けられるよう協力体制にある。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体の変化などは、その都度看護職員に報告し、医師には看護職員や管理者を通じて連携を図り、安心な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、病院からの入居相談があった時など、出来る限り真摯に受けるよう努力している。また、一度入院などでお世話になった病院のソーシャルワーカーとは、懇意にするよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時、ターミナルケアについての説明をし、納得の上同意を取っている。入居中に重度化した場合も、家族、医療関係者、職員と話し合いの上、全員が統一した見解で利用者の終末期に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急訓練を年一回行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合火災避難、毎月のミニ避難訓練の他、地震、水害対策の訓練も行っている。また、運営推進会議の中で、秋の総合火災避難訓練をして、地域の方との協力関係を築いている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴などの声かけは、遠くから言わず利用者の側に行って話すようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日メニューで本人の希望を聞いたり、食事でも何でも完食を勧めたりせず、その時の思いや気分に従い、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	外へ出てみたいという利用者には、多少寒くても止めることなく、外へ付き添ったり、入浴を希望する方にはいつでも入浴してもらえよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問理美容を受けられるようにしたり、季節に合った服装が出来るように支援している。服装が自分で選択出来る方には、自由にしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では本人のお好きなメニューを取り入れたり、行事食の時は、お代わりなど自由してもらったり、日頃より出来る方には利用者中心の調理の時間を設け、台所に立ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量の記録をタブレットに記載し、普通食が食べられなくなった方には、介護食を提供し、状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行し、職員が仕上げをしている方もいる。自分の歯がある方は、定期的に訪問歯科に診てもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各人、時間によるトイレ誘導をし、未排便日数を職員全員で共有し、運動を促したり、薬を調整してトイレ内での排泄に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	余り薬に頼らず、毎日飲むヨーグルト、オリゴ糖の摂取を励行し、欠かさず運動を日課としている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	行事がある以外は、いつでも入れるように準備している。全員が平均して入れるよう、入浴表を付けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を工夫しながら(天候を見て散歩、階段昇降など)身体を動かして安眠につなげたり、休みたい様子がある時は無理強いしない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	意思や看護師から薬の目的、副作用、用量を聞き、スタッフ全員の理解のもとで服薬してもらっている。人によってのむオブラートを使用している。誤薬のないよう二重、三重のチェックをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性であれば食器拭きなど、男性であれば草刈りなどのお手伝いをしてもらっている。コーヒー好きのかたには、ドリップコーヒーを提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では散歩や日光浴で外へ出たり、毎月一回家族と発寒イオンへ出かけたりしている。外食などはまだ解禁していない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持に関しては、本人の希望があれば、少額にしていたき制限はしていない。お出かけなどに制限があったため、お金を使う場面がなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物があった時お礼の電話をする支援をしたり、家族の希望によりお手紙、ハガキを書くよう促しの声をかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁飾りや思い出の写真を飾って、雰囲気を感じてもらったり、入浴時は、プライバシー保護のため、脱衣所をカーテンで仕切っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	完全に一人になる事はないが、居間にあるソファでくつろいだり、居室にてお好きなテレビを視聴されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居時に使い慣れたなじみの物を持って来ていただいている。昔のアルバムを見返しては、安心し穏やかに過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室には、わかりやすく表札を掲げたり、トイレを大きく表示したり、手作業で使う物は利用者もわかるように名前を表示している。		